



ソン・ギウン(成耆雄/성기웅/SUNG, Kiwoong)

劇作家、演出家。第 12 言語演劇スタジオ 主宰。1974 年生まれ。

2006 年から本格的に劇作、演出活動を開始。慣習的な感情表現から脱皮した繊細で緻密な作品作りで注目を集める。いわゆる植民地支配下のソウルを微視的に描く一連の作品や平田オリザの「科学」シリーズの翻訳・演出作品などを発表。

大韓民国演劇大賞優秀作品賞、ドゥサン・ヨンガン芸術賞（公演芸術部門）、今日の若者芸術家賞（演劇部門）などを受賞。

1999 年、交換留学生として来日して日本語を学び、平田オリザ、野田秀樹、多田淳之介など、日韓現代演劇の交流や共同制作、日本の現代戯曲の翻訳にも携わっている。

多田淳之介演出の『가모메 칼메기』(2013)の脚本では、アントン・チャーホフ原作の『かもめ』を 1930 年代の朝鮮を背景に日本語と朝鮮語とが混ざり合う戯曲へ置き換え、近作『新・冒険王』(2015)では、平田オリザとの共同脚本・演出で、日韓の現代の姿を描き出した。